



クオニカル

第21号
2014年10月31日
一般社団法人
自立生活センター三田
通信・発行

生きてきて想うこと

1998年の入院中のベッドで聞くラジカセからは、何度も“これからは福祉産業になる”と変わろうとしている福祉制度について評論家らしい人物が得意げに語っていた。その時の私には全く実感できない話であったが妙に記憶に残っていたのは、後に「福祉サービス利用援助事業」と深く関わらざるを得ない生活への予感であったのかも知れない。

その後退院して電動車イスに乗るようになった私が生活をする為には介護支援が必要になった。歩いていた姿を知っていた障害福祉課の担当者による素早い対応によって、“日常生活自立支援“の何たるかも分からないまま利用することとなり、派遣されたヘルパーは社会福祉協議会の事業所だったが、私の中で漠然とした違和と不快をいつも感じていた。そのひとつに外出問題があった。外出に先立って申請提出書を求められた。”いつ・どこへ・何時から何時まで・交通手段は〇〇“と書いて事業所の許可を貰うという手続きである。いつどこへ行くかは個人の自由である、にも関わらず交通機関まではやり過ぎではないのだろうか？権利侵害の思いがしてならなかった。ただ書き添えればこれは10年前の話であって、障害者の人権が尊重されるようになった現在では違うのかも知れない。

そんな時ピア・カウンセリングに出会ったのである。

人がありのままに生きる素晴らしさと意味。当事者運動の歴史と意味を知って、漠然としていた思いが何からきていたのかが分かってきた。

ピア・カウンセリングによって“障害”についての意識が変わっていくと、いつも健常者社会を基本にして頑張っていたことが、私を苦しめ縛っていた原因であったと気が付いたのである。

障害者イコール可哀想と同情されて生きることに、前々から私は、強い反発心を覚えていた。

自分の生活は自分で決める。【自己選択・自己決定・自己責任】自立生活は当たり前生きる権利であり、自然の要求である。重い障害を持っているからというだけで、個人の人生を他者が決めて良いわけではない。例えそれが、愛からであっても、慈悲からであっても…である。

世の中で“愛・優しさ”への考え違い、思い違いはないだろうか？

社会を構成する一人として、障害者も必要な存在であることに変わりがない。健常者側から見た社会の考えた自立ではなく、障害を当たり前として、自らの人生感を持ち社会の一員としての自覚した生き方こそ自立生活である。障害を持つ人、持たない人の分け隔てのない社会の実現の為に両者の存在は必要である。地道に明日も明後日もシコシコと活動していきたいと思っている。

今の私がこうして在ることの意味を教えてくれた、先達に返すことはできないけれど、苦しみや、悲しみで人生を曇らせている人達に寄り添っていくことこそ、私の役割を果たせるのだと確信している。(吉田)

- 目次
- ・ピア・カウンセリングに集中講座を終えて……
- ・ピア仲間からのメッセージ
- ・学生介助者の旅立ち&新人介助者の自己紹介
- ・今年に開催したイベントなどなど……





ピア・カウンセリング集中講座を終えて

9月25日（金曜日）少し冷え込んだ清々しい朝でした。

第1番目に会場（三田市まちづくり協働センター）入りされたのは、遠く広島から参加のA.Tさん！自走式車イスで大きなバッグを膝に乗せた、オレンジ色の花が咲いたような香りのする女性。

和歌山1名・福井1名・三田3名の参加者。

リーダーの安原美佐子さん（自立生活センター あるる）と私の8名で始めました。

自立生活センター三田としては、初めての集中講座だったので、緊張の三日間となりました。メンバーのパワーに支えられ終えてみると、ひとつの山越えをした後のような喜びに静かに包まれました。

あらためてピア・カウンセリングの奥深さと伝えることの難しさを覚えましたが、これからも自分の喜び悲しみに目を逸らさず、ありのままに自由に生きていきたいと思えます。



ピア・仲間からのメッセージ

『ピア・カウンセリング講座』は久しぶりで、朝早く鯖江を、緊張と興奮気味で車を走らせながら望ませて戴きました。でも会場に入ると初めて会う人たちの顔に、身が引き締まる様な思いがしました。自分の年齢を考えると恥ずかしい気持ちでしたが、心に深く傷ついた思いが強く、素直な気持ちで講座に望ませて戴きました。

今までいろんな人に相談や愚痴を言ってきました。自分が納得する結果を求めている部分もあり、満足する答えを得られず、辛い気持ちを引きずりながら参加させて戴きました。講座中、改めて『ピア・カン』の目的や約束そして人間の本質など、分りやすく教えて戴き、忘れていた部分などあり、新鮮な気持ちで臨ませて戴きました。「感情の解放」では、深く傷つき埋もれていた思いが湧き出で、涙が溜まらなくなり、冷静に自分の気持ちを抑える事が大変でした。もっと時間があつたら、号泣していたかも知れません。

『ピア・カウンセリング』の講座だから、初めて出会った人たちとも、自然に親しくなり心から相手を信頼し、許しあえる友だち以上の関係性を築けたことは素晴らしい事だと思います。

私の周りには、友だち知人は沢山います。でも心から信頼して相談など出来る仲間は数人しかいません。それも心の中の深い思いを聞いて戴ける人は誰もいない位です。

以前 『ピア・カウンセリング』と一般のカウンセリングの違いを教えて戴いたことを思い出しました。一般のカウンセリングとは、相談したことに対して答えをもらい、それにしたがって行っていきます。

でも『ピア・カウンセリング』は答えを求めて行うカウンセリングではなく、「セッション」を通して自ら問題を自ら掘りおこし、自ら改善して行うことでした。

話は異なりますが、家の隣は「お寺」さんで、春秋の彼岸会やお盆などお参りをする事があります。ご住職さんの話の中に、良く「気づき」を得て下さい、と云われます。

『ピア・カウンセリング』でも自らが「セッション」を通して自の心に「気づく」事によって、いろんな事に踏み出す勇気ももらって行くのだと思います。悩み苦しんだことは解決していないけれど、殻に閉じこもっていた心が扉を開け、外に出て行く様な気持ちです。それといつでも私の周りにはみんなが味方となり、応援して戴いていることも肌で深く感じました。

講座を終えて、思うことは、僅かかも知れませんが、心が軽くなったように感じます。行く時は、曇天の空で、今にも雷が鳴りだし、雨が降り出しそうな感じでしたが、帰りの車の中では、秋空の様な、真っ青で澄み切った素直な気持ちでした。今回 このような機会を戴き、篤く御礼申し上げます。

この気持ちをいつまでも持ち続けて行きたいと願っています。

ありがとうございました。お世話になりました。

西野 清信





ピアとは[仲間]という意味が有ります。リーダーとサブリーダーの方の紹介の後集中講座が始まりました。

人間は”愛し愛されたい”存在、色々な経験が相手を認め、寄り添い同じ悩みを持つ仲間として語り合い心の中の声を聞いて貫き本心をさらけ出して利害関係のないその場限りの話をしていって自分自身を見つめ、感じ合ながら時間を共有していくすばらしい時間だと思いました。

一人じゃないんだと!!

“愛し愛される関係”素晴らしいと思いました。

自分自身の障害を真正面から見つめ、他人とは違っていても良い、出来ない事ばかり考えがちだが自分にしか出来ない事をやっていく、考え方を変えてみる、いろいろな方法を考えて一歩前に出る。

いつも私自身考えている事なのだが中々難しさを感じ、改めて思いました。

又、近くで行われるピアカンの集中講座に参加したいと思いました。

出逢い、感じ、人とのふれあいの中でいっぱい気付いていく。

その主催者さんによって、メンバーによってその講座の雰囲気とか、空気とかが違うので勉強になりました。その日の天気の違い、季節の変化等、何気なく過ごしてきた事の発見を発表するのも和やかな空気になって行ったので良かったと思いました。

あいし あいされる そんざい 最高でした。

2014.9.26-28

伴野 嘉子

以前から私にとって「ピアカウンセリング」はとても不思議なものでした。ピアカンという言葉は知っていたけれど、よく分からないし、近寄りにくいなぁと感じていたからです。そんな私が集中講座に参加して、ほかの参加者のみなさんはどう思うかな? 気合いが足りないって怒られるかな? と内心ドキドキでした(笑)。

集中講座のなかで、私はそのことを率直に口にしました。でも、それを否定したり批判したりする人は誰もいません。「あぁ、そうか! ピアカンってこういう安心感のある場所なのか! 」と胸にストンとおちる瞬間でした。

どこかで「知識や技法を学ぶための研修」というイメージを持っていた私には、参加者全員が対等に時間を分け合い、互いの話を聴きあうことに徹するというのは、とても新鮮でした。上下関係や利害関係なく、胸に秘めてきた思い・口にしたかったけれど出来なかった言葉を聴きあうことを繰り返していくなかで、自分の元気をチャージできたように思います。

相手をそのまま受け止めること。自分自身を認めること。

自分の力を信じること。仲間の力を信じること。

ピアカンのとき限定の話ではなくて、いつもそんな風に自分を信じて生きられたなら、他者を受け止められたなら、私たちの未来はきっと明るい! そう感じます。集中講座を通して知ったこと・考えたことを今後の活動にいかしたいと思います。また、今回、全国各地の仲間との出会いに恵まれました。新たな出会いに心から感謝します。



広島県リハビリテーション協会所属
竹内 麻美



ピア・カウンセリング集中講座

土田 浩敬



こんにちは。

みなさま、初めまして。私はピアカウンセリング（以下、「ピアカン」という）でツッチーと名乗っております。障害は頸随損傷で電動車椅子を使用し生活をしています。ピアカンは以前、ビギナーズ1回に集中講座1回と長期講座を2回受講してきました。今回は1年ぶりのピアカンで、自分自身が忘れていないだろうか、上手くセッション出来るだろうか…とよけいな事を考えつつも久しぶりのドキドキ感で程よい緊張を感じながら3日間の講座の報告をさせていただきます。

1日目

会場は家から近いので徒歩で向かいます。午前中は私用で欠席とさせて頂いておまして、皆とは一歩で遅れて午後からの参加となりました。皆とは初対面、午後からのプログラムが始まり自己紹介をさせて頂き、さぁこれからピアカンが始まるぞと心の中で言い聞かせました。以前、集中講座と長期講座を受講していた事もあって、初めての頃よりも理解して臨む事が出来ました。以前ならば、聞いていても理解する事が難しく思えたのですが今回は“これは以前教わった”“これは知っている”と徐々に思い出し、初めてのメンバーとのセッション（2人1組になり対等に時間を分け合い話す事）も新鮮で、1日目があっという間に過ぎて行きました。

2日目

1日目は午後からの参加でしたが、本日は午前午後とあります。まずはニュー&グッツ。みんながそれぞれ、昨日のプログラムが終わってから良かった事、新しく発見した事を述べていきます。みんなのニュー&グッツを聞くと少し嬉しい気持ちになるのは、私だけでしょうか。昨晩もぐっすり眠れたので清々しい気分ですターしました。2日目はセッションを多く行うとの事…自らの事を話すのが苦手な私は、10分を超えるセッションはおろか、5分のセッションでも以前は苦戦していたのですが、今回はそんな事は無く言いたい事が言えてスッキリしました。セッションを沢山重ねて疲れましたが、ピアカンの事が楽しく思えた1日でした。

3日目

3日目は何と言ってもロールプレイ（あらゆるシチュエーションを想定し2人1組で演技をする事）2人の演技を観察し客観的に見る事で、皆で意見を出し合い考えて自らが抱える問題の解決法を、身を持って体験する事が出来ます。メンバーの演技がとても上手で分かり易く、“確かにこういう事あるよなぁ”と自分に置き換える事も出来ました。

3日間を通じて今回も楽しく講座を受講する事が出来ました。以前長期講座を受講している事もあり、今回のプログラムが次にどのようなふうにつながって行くのかが、より理解出来たと思います。そして楽しくセッションが出来た。話す事が上手く無い私も話す事が出来たのは皆のお陰だと思います。またこのような機会を設けて下さったCIL三田の皆さんに感謝するとともに、分かり易く進行して下さいましたリーダーのお二人にも感謝を述べたいと思います。3日間、本当にありがとうございました。

初めて参加させていただきました。皆さんの日頃 思っている事、感じている事、人には言えず一人で悩んでいる事 など 聞いたり 聞いてもらったりしているうちに【一人で悩んだりしなくても 良いんだなぁ〜】て思いました。この世の中に私の様に 言いたくても 言えない 人は沢山居るのではないかと 思った時に 私は そういう人達の話をきいてあげたいと思いました。今回の講座で学んだ事を活かして行きたいと思います。

吉田 秀美





初めてピアカン研修を受けた時は余り「ピン」と来なかったけど、今回受けてみて少し自分のものになったように思いました。

1 日目の「ピアカウンセリングってなあに？」では、何回かのセッションの時間を設けて仲間同士の対等や関係性の回復について学びました。

「人間の本質と感情の解放」については、はじめに「人間には誰でも素晴らしい本質がある」ことから「5つの人間の本質」を学びました。その中でも特に私が興味を持ったのが次の2つです。

- 1、 人間は愛し愛されたい存在
- 2、 人間は力強い（パワフル）存在

<人間は愛し愛されたい存在>

セッションでは「自分はどんな時に愛されてると感じるか？」について話をしました。普段何気なく周りの人が自分にしてきている行動、言葉などがすでに自分が愛されているのだなあと思ったのと同時に「愛されていなかったらここまでやってくれないよね」という意見が出ました。

<人間は力強い（パワフル）存在>

セッションでは、「自分はどんな時に力強い（パワフル）と感じるか？」について話をしました。一番多かったのが「相手に何かをやって認められた時」という意見が多くありました。

2 日目の「障害について」では、まず自分の障害を皆にオープンしました。

セッションでは、「障害となった自分を受け入れるまで」について話をしました。私みたいに途中から障害者となった人も中には何人かいたので私を含め、途中から障害になった人達からは「はじめは自分に何が起こったの？」頭の中が真っ白になったという意見が多くありました。

「信頼について」では、「信頼って何？」を皆で議論しました。

その中でお互いの信頼関係が成り立っているからこそ、誰にも言えないことでも言えるのではないのだろうかと言う結論が出ました。

3 日目の「自立生活プログラム」その言葉の意味が講座前までは余りイメージがわからなかった。でも、言葉の説明・話し合いを通じて少しはわかってきました。

話し合いでは、車椅子を利用してる人から「JRの職員の対応が悪い」と上がってきました。

私も「区役所職員の対応が悪かった」と発言しました。

言葉の説明を聞いて初めて「自立生活プログラム」が制度についての情報提供だったんだと知りました。

「ロールプレイ」では、実際に悩んでいる事を出し合いその時の場面設定し皆でどうしたら良いか考えました。

最後の「アプリシエーション」では、「お互いを褒める・褒められる」をテーマでセッションしました。

1 ほめられる時はどんな気持ちができるか？

2 どんな風に心が動くか？



この2点を特に意識しました。

褒められる時はどんな気持ちができるか... 普段はあまり褒められたことがないから体全体がムズムズ、でも悪い気はしないよねえ。といった意見でした。

どんな風に心が動くか..... 普段自分が思ってた以上に周りは自分の事を思っていたんだといったことが聞かれました。今回の研修に参加してみて「人間の本質と感情の解放」「障害について」「信頼について」の3点がすごく勉強になりました。

これを今後のピアサポーターに生かしていきたいです

自立生活を始めたころから学生介助者との付き合いが始まっている。若い彼女たちのエネルギーは力強く私は数知れず助けられてきた。何事につけても「……エ！」からの10代の彼女たちが、すっかり1人の女性に成長している姿にまぶしさを感じ始めると巣立つ時がもうそこに迫っているのである。若い彼女たちに介助の日々が少しでも実りあるものであればと祈りつつ、感謝と共に祝福を持って見送りたいと思っている。



私は大学1回生の春休みからこのアルバイトを始め、約2年半お世話になりました。

私は外出の介助に入るのが好きでした。吉田さんと一緒に新幹線に乗り、東京へ行ったのはとても印象深かったです。やはり都会は駅員さんの数も多いし、車椅子が電車の乗り降りのときに使う板を持った駅員さんが常にホームにいる駅もあり、乗りたい電車でスムーズに乗れました。私たちは電車に乗るとき、乗車時間のぎりぎりにきても間に合えばすぐに乗りたい電車に乗ることができます。しかし、車椅子だと、乗り降りのときに使う板や駅員さんの手配などで待たされて、乗りたい電車に乗れないことも多々あります。車椅子について外を歩いてみると、歩道に止められている自転車や車で道がふさがれていて通れなかったり、段差や整備されていない道などは車椅子だとがたがたととても不安定です。目的地はもうすぐそこなのにエレベーターがなく遠回りしないといけない場所、車椅子用のトイレがないところなど、何の不自由もなく過ごしている普段の生活では意識していなかったことに気づかされるのがたくさんありました。同時に、エレベーターでボタンを押して待っていてくれる方や、できるだけ乗りたい電車に乗れるようすばやく手配してくれる駅員さん、車椅子でも入れるようにテーブルなどを動かしてスペースを作ってくれるお店の方など、たくさんの方の優しさも感じる事ができました。エレベーターやきれいに整備された道などは障害者の方だけでなく、高齢者の方や妊婦さん、ベビーカー、怪我をしている人、重い荷物を持っている人などにとっても助かると思います。こうして考えてみると、私たちも本当はいつも当事者であり、人の助けや整った環境などのおかげで不自由なく生活できていることがわかります。

このアルバイトを始めてから改めて自分がどれだけ恵まれているかがわかり、いろんなことに感謝できるようになりました。最初は、身体に重度の障害を持ちながら一人暮らしをされている人ってどんな生活をしているのだろう、きっと色々大変なのだろうなと思っていました。しかし、吉田さんをはじめ、このアルバイトを通して出会った自立生活をしている障害者の方々は、とてもパワフルで障害があっても暮らしやすい世の中にするため様々な活動をされています。このアルバイトをしていなければ関わることもなかったかもしれないし、自分の考え方も固いままだったかもしれません。とてもよい経験をさせていただき感謝しています。

ありがとうございました。

成瀬美紀



私は大学1年の頃から3年間、自立生活センター三田に携わってきました。この仕事に携わるようになったきっかけはOGさんから「話聞くだけでもいいし、ボランティアから始めてみない？」と軽いお誘いを受けたことです。私は福祉の現場をメディアからの情報だけにとらわれず、自分の目で見てみたい、とりあえずボランティアしてみようかな、とこれまた軽い気持ちでお話を受けることにしました。しかしボランティアとして始めようと思っていたのにも関わらず、あれよあれよと気がつけば、重度訪問介護の資格を取得し、ほかのアルバイトを辞め、いつの間にか3年もの間お世話になっていました。

はじめは慣れない家事や身体介助の難しさ、夜間帯の勤務やハプニングなど、大変な苦勞をしたことを覚えています。しかし何より苦勞したのは、利用者さんであり、仕事を教えてくださる吉田さん自身との距離感を掴むことでした(笑)私も子どもだったなど反省する点は多くありますが、言い合いになることもしばしばありました。利用者と介助者がぶつかるなんて、通常では考えられない関係だったと思います。しかし、これは障害者の自立生活をする上で欠かせない利用者と介助者の支えあい・信頼関係があるからこそだとポジティブに考えるようになりました。そう考えるようになってからは私自身気持ちも楽になり、仕事も心地よく行えるようになりました。

大学進学をきっかけに地元福岡を離れ、兵庫で一人暮らしを始めた私にとって吉田さんの家は第2の家です。家族とも友人とも違いますが、大学生活4年間において家族や友人以上に最も長い時間を共有した近い存在です。右も左もわからない世間知らずの私を育ててくださった吉田さんや他の介助者には感謝してもしきれません。来春からは福祉とは全く違う業界で働くことになります。ここで学んだ、支えあいや感謝の気持ちを持つこと、そして障害者の方々の世間にかき消されてしまう小さな声、思い、存在を忘れずに胸に留めて頑張っていきたいと思います。

中村麻由



吉田さんと三年間過ごして来て、吉田さんはとても活気があり、いろんなところに出かけたり、いろんなことに興味を持ったりして、とても元気な方です。家事やお庭のことなどを丁寧に細かくするところもあれば、え？そこは気にならないの？って思うようなサバサバしたところもあります。そのような吉田さんの性格がわたしの性格と合うところ合わないところが出てきて、常にいい関係でいたわけではなかったです。わたしは吉田さんの娘さんよりも若いし、子どものような感じだったと思います。実際にまだまだ子どもですが、、そんなこともあり、吉田さんと距離ができてしまったり、時には意見がぶつかる時もありました。そういう日々を過ごす中で、吉田さんにわたしの意見を伝えられる機会があり、吉田さんに伝えることができ、わたし自身スッキリして、吉田さんとの距離もなくなり、すごく楽に介助することができるようになりました。吉田さんのすべてを理解することは出来ませんが、理解しようとする気持ちが大切だと思うし、わたしの意見なども伝えることが大切なんだと思います。家族ではないけれど、家族と同じくらい近い存在だからこそ、しっかりとした関係を築いていくことが大切です。このようなアルバイトができて、とても良い経験になってこれからの自信にもなりました。

おかげさまで、4月から特別支援学校に就職することが決まりました。人に伝えること、いろんなことに気づけることなどを学ぶことができたこの経験を活かして頑張りたいと思います。

川原綾香



新人さん紹介

わたしがなぜ介助のバイトをしようと思ったかという、小学生の時クラスの子に障がいを持った子がいました。小学生だった私や周りの子は、その子が障がいを持っているからといって特別扱いをしませんでした。その子が困っていることがあれば手助けをする。というのが当たり前でした。しかし大きくなるにつれて社会は障がい者の方にとって住みにくい環境、そして周りの人々の意識の低さにギャップを感じました。それから高校生になりボランティアを通してそのようなことに関わっていきました。大学生になっても関わっていきたい。願わくはバイトとしてしたいと思っている時に、授業でこのバイトが紹介され、やることにしました。

まだバイトを始めたばかりで、失敗やできないことだらけです。でもやりがいを感じます。そしてたくさんのことを学んでいます。リング&リングの研修では介助の仕事をする上での心構えを知りました。自分が考えていたことや知っていたこととは違っていて衝撃を受け、生の声をはじめて聞くことができ自分の考えも変わりました。私は今まで誰かのためになると思い、自分の感情だけで動いていたと思います。しかし相手のためにではなく、相手をサポートする。相手のしたいことをサポートする。という気持ちが必要なんだということが分かりました。それは小学生のときに感じていた初心の心でした。

これからいろんなことを経験すると思いますが、初心を忘れずに頑張っていきたいです。

山本 和



こんにちは。今年の5月下旬から働かせて頂いている関西学院大学1回生の中川絵梨香です。今まで様々なボランティア活動に携わってきて、障がい者の方と関わる機会もありましたが、身の回りのお世話を介助という形では初めてで、最初は不安もありました。しかし、優しい先輩方に仕事を教えていただき、今では少し余裕もでき、楽しく働かせて頂いています。

吉田さんの介助に入らせて頂いて、一緒にお出かけに行くと、少しの段差や坂が障がい者の方にとっては大きな障害だったり障がい者の方の目線で気づくことがたくさんあり、日々勉強させていただいています。

まだまだ未熟ですが早く仕事に慣れ、障がい者や高齢者への援助の意識を高め、頑張っていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

中川絵梨香



吉田みちさんとの出会い



みちさんの介助にはいってもう半年が過ぎました。

まだまだ 未知の世界です。今まで 長い間 病院勤務で認知症の患者様たちの介護をやってきました。

業務のほとんどは 流れ作業的で 日常会話の成立しない重度の認知症を抱えた患者様への介護は 食事介助 おむつ交換 その繰り返しでした。

重度の認知症や統合失調症の患者様の介護従事者というのは長くは続かず 人材不足の中 無理な勤務をこなしていたため 体調を壊し縁あって みちさんのお宅で 重度身障者の介助という 自分でも未知なる仕事に従事することになったのです。

この半年 あっという間に過ぎたような気がします。

何もかもが 新鮮で 覚えることもたくさん 今までの考え方すら 変えてまったく 新しい視野で 仕事をこなしていかなければならないという自分にとっては 精神的にかなりしんどい日々ではありました。

ただその中で 毎日 自分の中で 新しいものが芽生えます。

みちさんから 学べることは 沢山あります。

私の知らない世界 知らない知識 専門的なこと。また 生活の知恵。

料理の工夫。素材の生かし方。生活全般に 生かせる必要な知恵。

庭に咲く 初めて見る花たちのことや小さな雑草から 高貴な花まで。

全てが みちさんの下では 生かされています。

重度の障害で 自分自身では 動けない分 みちさんは普通の人では考えもつかない 気配りが出来 従事する個々 ひとりひとりの個性すら全て生かしてくれ 見守ってくれて 広い心で 育ててくれていることを感じています。

日々 学び 人生 生涯学習という言葉がありますが 人はある時は1歩前進 または 2歩後退しながらも 生きている証を 刻んで未来に向かってゆきます。

重度の障害をもちつつも 健常者よりも 忙しく 機敏に 活動的に知恵をもって行動し 決して疲れたとは言わない。

ある時は厳しく けれども 心は少女のように優しく可愛い方です。

これからも ずっと そんなみちさんを見守りながら たくさんのことを学ばせてもらえたらと わくわくしながら 毎日を過ごしています。

来年には 庭にたくさんの花が咲きます。

スタッフで 少しずつ 植えた花たちです。みちさんの愛情がたっぷり注入されて 私たちが世話をして 皆で育てる みちさんの庭です。とても 楽しみです。

山本真弓

生命のことづけ& 渡邊智恵子氏講演会

2014年3月8日



東日本大震災『忘れな3.11』の願いをこめたイベント。『生命のことづけ』上映会&講演会は昨年の『逃げ遅れる人びと』に続いて、強く震災について多くの事実を私たちに知らしめるものでありました。渡邊智恵子氏 女性実業家(震災後ソーシャル事業として、東北グランマの仕事作り、オーガニックコットンを用いた製品創り。女性たちへの雇用創出者)をお迎えしての講演会をおこないました。



富士中学校でお話させていただきました

2014.6.6

富士中学校体育祭

2014.9.13



青空の下 清々しい熱気と砂ぼこりが舞っていました。

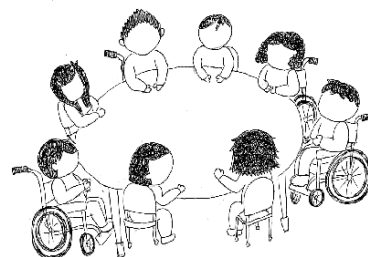
何十年ぶりかの体育祭
思わず胸がきゅんとなりました。

ピア・カウンセリング集中講座

2014.9.26～28
三田市まちづくり協働センター6階
多目的ホール



ピア・カウンセリングの出会い
大切な仲間たち!



恒例のバーベキュー!!!

OB 介助者たち、かわいいおチビちゃんも
一緒です。最高—にハッピー・ハッピー♪



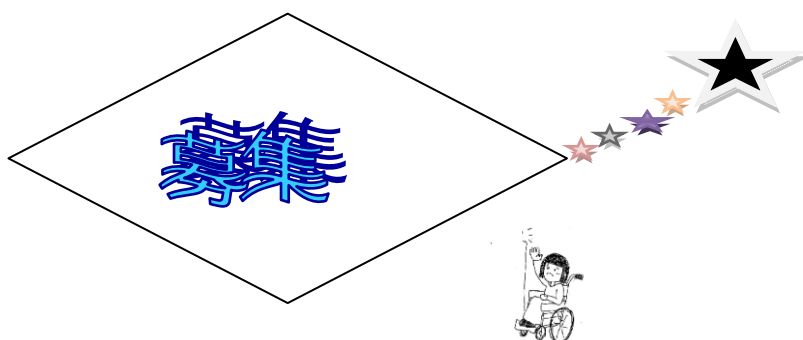
編集後記

辺りの木の葉に交じって急速に季節が変わろうとしています。またまた『クロニクル』通信発行が遅れてしまいました。

春からの大きな出来事と言えば障害当事者にとって「障害者総合福祉法」が施行されて政令など数々の案件が審議されていますが先行きが気になるところです。今年も震災での障害者をテーマとした上映会を、いろんな方々の支援を受けながら行うことができました。また念願の“ピア・カウンセリング集中講座”を開くことができたのも大きな喜びと力となりました。

最近疲れを感じていましたが、振り返ってみれば胸を熱くする出来事ばかり、良きにつけ悪きにつけても生きている証。ひとつひとつが私を生かし、歴史が動く痛みである気がしています。

(よしだ)



- ★障害を持っている方、ピア・カウンセリングやクロニクル編集などなど、他市の障害の仲間との交流をひろげた活動をしてみませんか??
悩みや不安、怒りを共有して、共にいきる社会を目指していきましょう!
自立生活センター三田のスタッフになって働いてもらえませんか?
詳細は下記にお問い合わせ下さい。(交通手段等なんでも、相談に応じます)

- ★介助スタッフ募集
障害を持つ方の生活を支えるやりがいのあるお仕事です。
資格・経験のない方でも相談に応じます。(資格修得応援します)
時間 ①10:00~19:00 ②19:00~8:00 (短時間でも、相談に応じます)



- ★ボランティアさん募集
家でのお手伝いや、クロニクルの活動に参加してみませんか? 経験や資格など問いませんので、興味をもたれた方は、ご連絡下さい。

2014年11月1日発行
自立生活センター 三田
三田市駅前2番1号 三田市まちづくり協働センター6階気付
☎079-567-1708 Hp: <http://cil-sanda.jimdo.com/>